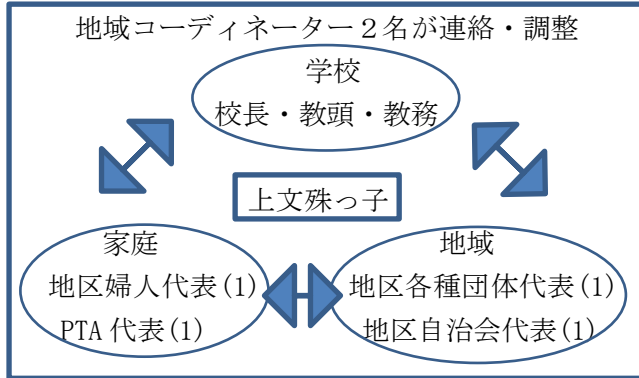


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



地域コーディネーター（2名）
上文殊公民館長、上文殊公民館主事

(2) 協議会の内容

①開催日

6月19日
12月17日
2月12日

②協議内容

- ・学校経営の基本方針
- ・地域家庭連携事業の推進
- ・学校関係者評価の検討
- ・児童の安全確保
- ・学校行事の企画運営

(3) 協議会における成果と課題

- ① 日頃から地域と連携した学校行事を開催する等、地域行事への積極的に参加している。さらに自分の地域が好きだと感じられるような取組になるよう、継続発展させる。
- ② 家庭・地域・学校が一体となり、信頼関係を保ちながら、園・小・中の連携を密にして子どもたちの成長を見守り、育んでいく。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・地域の伝統行事に地域の方の協力のもと積極的に関わり、地域への理解と愛着を深める。
- ・地域との関わりの中から学んだことを学校や家庭生活に生かして深めるとともに、健やかな成長と主体的な活動につなげる。

(2) 活動の実際

①地域と連携した活動「稲っ子クラブ」

<生育調査>

献上田のお田植え式の後、稲の生育調査を9月までに10回実施した。今年度、児童たちは、田植え時の一株の株数の違いによって成長に差があるのか、株数によってできる米粒の数に違いはあるか、一番経費がかからない株の植え方はどうかという3点について調査・研究を重ねた。また、収穫の作業や刈り取り式で、はさ掛けまで終えた稲を昔ながらの手作業で脱穀し玄米にした。慣れないながらも、地域の方々からの指導で稲作を体験し、昔の人の苦労や米作りの大変さを学ぶことができた。さらに脱穀後のわらを使い、お正月飾りとしてリースを作り、思い思いに飾り付けをした。稲作に加え、藁を使ったしめ縄づくりを地域の方々から教えていただき、改めて昔の人々の知恵のすばらしさを実感することができた。



＜成果発表＞「敬老とふれあいのつどい」と「三世代交流事業」の2つの地域行事で「稲っ子クラブ」の成果発表を行った。5年生9名で役割分担して協力し、今までの調査・研究の成果をまとめ、発表資料を作成した。また、お年寄りから子どもまで理解できるように劇仕立てにしたり、クイズを導入したりして、工夫して発表した。実験の様子も資料や写真を使って分かりやすく発表した。指導にあたっていただいた地域の方々から賞賛の声をいただく内容であった。



②地域の行事等への関わり

＜地域行事への参画＞

東大寺お米送り事業「お田植え式」と「刈り取り式」で、4～6学年児童が、古代衣装を身につけ「ふるさと上文殊」を合唱したり、田植えや刈り取りをしたりした。行事を通して、「米作りの大切さ」を学び、「郷土愛」が育まれている。

③人と自然の関わりについての広い視野からの学習

＜三世代交流事業＞

2月1日(土)に「米とわら」をテーマとして三世代交流事業を行った。会では、稲っ子クラブ成果発表と体験学習を行った。体験学習では「昔遊び」「縄緬い」「縄結び」「かき餅編み」を行った。児童は、多くの保護者、地域の方々から地域に伝わる豊かな自然から生まれた知恵を直接習い、その中で多くの「昔の知恵」を学ぶことができた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ①児童が、地域の行事に参画する上で、興味・関心が深まり、主体的に取り組むことができるような活動が行えるよう指導・助言をいただいた。
- ②地域と連携した行事が円滑に効果的に実施できるよう、地域と学校との連絡・調整をしていただいた。また、学校教育活動全体から、地域性を鑑みた活動の在り方について意見をいただいた。

(4) 特に工夫した事項

児童自らが考え、実践する内容を増やすこと

(稲の生育調査では、昨年度の調査・研究に加え、よりよい米作りを視点として農家の立場を考えた調査・研究を行った。)

(5) 成果と課題

【成果】

「稲っ子クラブ」の調査・研究では、地域の方々との交流を通して地域で育まれた米作りの知恵や工夫、農家の苦労や努力について学ぶことができた。また、研究成果を評価していただいたことにより、大きな達成感を得ることができたと同時に地域への関心をより深めることができた。

【課題】

今後、さらに児童数が少なくなると、現状での活動や取組を維持していくことが難しくなる。児童の負担や活動時間、活動の形態を吟味し、活動の目的を明確化した取組へと精査していく必要があると考える。